

# IT 技術者のキャリア・デザインと 新情報処理技術者試験

白河 一郎

## ■ SEからIT技術者へ

わが国のIT技術者は約86万人と、技術者の中で最大集団を占めています(2007年国勢調査)。米国でコンピューターの利用技術に携わる技術者が出現したのは1960年ごろでした。1962年には「システム導入推進係」として日本に伝わり、やがてSE(システムズ・エンジニア)と呼ばれるようになりました。1964年の東京オリンピックでは、オンライン・システムが導入され、SEの人数も急激に増加しました。1969年には通産省(当時)・情報処理技術者試験が、第二種・第一種・特種(1971年追加)の区分で開始されました。このころのSEは初級・中級・上級と単線型のキャリア体系でした。

1980年ごろから技術の複雑化・高度化に伴い、すべてに精通した「スーパーSE」を育成するには無理が生じるようになり、得意分野ごとの専門分化が始まりました。1990年

代前半には大手ベンダーで、SEをビジネスの形態に合わせ、プロジェクトマネジャー、コンサルタントなどに再編成。分野ごとのキャリア・パスを設定し、試験などで「中級・上級二段階」の社内資格を認定するようになりました。このころからSEという総称は仕事の実態を反映しなくなり、IT技術者という呼び名が生まれました。現在IT技術者はさまざまな種類に分化しており、キャリア・デザインを難しくする要素の一つとなっています。

## ■ ITSS(ITスキル標準)

ITSSは日本初の職業分野ごとの標準的なスキル基準で、IT技術者のスキル・レベル向上、人材育成を目的としています。業界共通のキャリアフレームワークとして、2002年12月にバージョン1が発表されました。ITSSでは、ITサービス提供に必要な技術者の知識やスキルなどを体系化しています。現在は11の職種と

35の専門分野ごとに7段階のレベルを設定。レベルごとに必要なスキル・経験・知識を定義し、研修ロードマップまで設定しています。

## ■ 情報処理技術者試験

情報処理技術者試験は年間出願者57万人(平成19年度)、大学入試センター試験を抜いて日本最大の国家試験となりました。平成21年度よりレベル4を認定する、ITアーキテクト向け「システムアーキテクト試験」、コンサルタント対象「ITストラテジスト試験」などが新設されました。

レベル1「ITパスポート試験:新設」、レベル2「基本情報技術者」、レベル3「応用情報技術者」の評価は、基本的に試験合格をもって認定されます。「高度な知識・技能を持つ」レベル4、「企業内のハイエンドプレイヤー」レベル5は、情報処理試験のほか、業務履歴確認と面接を併用します。「国内のハイエンドプレイヤー」レベル6、「世界で通用するプレイヤー」レベル7は、プロフェッショナルのコミュニティで評価される方向です。

大手ベンダーのキャリア制度はビジネス展開に適したプロセスです。ITSSや情報処理技術者試験は、IT業界共通の仕組みを志向し、技術者のレベルや処遇を向上させ、流動性を高め、産業界・企業間でのキャリア・ミスマッチを解消する効果が期待されています。

出典:高度人材ITへの道標(平成20年2月・3月)、ITスキル標準V3概説書【独立行政法人 情報処理推進機構】

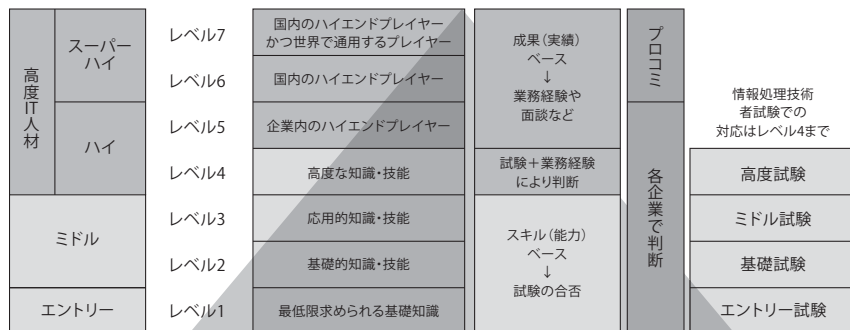


図2. 情報処理技術者試験の位置付け

| 職種   | マーケティング                                       | セールス   | コンサルタント                | ITアーキテクト   | プロジェクトマネジメント                         | ITスペシャリスト  | アプリケーションスペシャリスト                    | ソフトウェア開発                                 | カスタマーサービス         | ITサービスマネジメント    | エデュケーション  |
|------|---|--|------------------------|--|--------------------------------------|--|------------------------------------|--|-------------------|-----------------|-----------|
| 専門分野 | マーケティングマネジメント<br>販売チャネル戦略<br>マーケティングコミュニケーション | 訪問型コンサルティングサービス<br>訪問型製品サービス<br>メディア利用型サービス<br>インダストリー | ビジネスファンクション<br>インダストリー | アプリケーションアーキテクト<br>インフラストラクチャーアーキテクト<br>インテグレーションアーキテクト<br>システム開発 | ITアウトソーシング<br>ネットワークサービス<br>プラットフォーム | データベース<br>データウェアハウス<br>システム管理<br>セキュリティ<br>業務システム<br>業務パッケージ | 業務システム<br>基本ソフト<br>ミドルソフト<br>応用ソフト | ハードウェア<br>ソフトウェア<br>ファシリティマネジメント<br>運用管理 | オペレーション<br>システム管理 | サポーステスク<br>研修企画 | インストラクション |
| レベル7 |   |  |                        |  |                                      |  |                                    |  |                   |                 |           |
| レベル6 |   |  |                        |  |                                      |  |                                    |  |                   |                 |           |
| レベル5 |   |  |                        |  |                                      |  |                                    |  |                   |                 |           |
| レベル4 |   |  |                        |  |                                      |  |                                    |  |                   |                 |           |
| レベル3 |   |  |                        |  |                                      |  |                                    |  |                   |                 |           |
| レベル2 |   |  |                        |  |                                      |  |                                    |  |                   |                 |           |
| レベル1 |   |  |                        |  |                                      |  |                                    |  |                   |                 |           |

図1. ITSS V3のキャリアフレームワーク